

氏名	榎本 怜子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5293号
学位授与の日付	平成28年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Association between reperfusion and shrinkage percentage of the aneurysmal sac after embolization of pulmonary arteriovenous malformation: evaluation based on contrast-enhanced thin-section CT images (肺動静脈瘻の塞栓術後の再灌流と瘤径の縮小率との関連について：造影薄層CT画像に基づいた評価)
--------	--

論文審査委員	教授 伊藤 浩 教授 大塚 愛二 准教授 西田 圭一郎
--------	-----------------------------

#### 学位論文内容の要旨

肺動静脈瘻の塞栓術後の再灌流と瘤径の縮小率との関連を調べ、再灌流を示唆する縮小率のカットオフ値を決定する研究である。栄養動脈をコイルで塞栓した肺動静脈瘻 22 病変を対象とした。瘤径の縮小率と再灌流の有無を治療後 1, 3, 12 か月後に CT にて評価した。再灌流を認めた群と認めなかった群間で縮小率を比較した。縮小率を用いて診断能の有効性を決定するために ROC 曲線を作成した。再灌流が見られた病変は 1, 3, 12 か月後にそれぞれ 14, 13, 11 病変であった。平均の縮小率は 3 か月後と 12 か月後で有意差を認めた。ROC 曲線下の面積は 3 か月後に 0.091, 12 か月後は 0.934 であった。12 か月後の時点で瘤径の縮小率が 60 %未満であった全ての 9 病変は再灌流を認めた。肺動静脈瘻の塞栓術後 3 か月と 12 か月後では瘤径の縮小率は密接に関連していた。12 か月後で縮小率が 60 %未満の病変は再灌流が示唆される。

#### 論文審査結果の要旨

肺動静脈瘻は奇異性脳塞栓や脳膿瘍、喀血などの合併症を起こす疾患であり、カテーテルによる塞栓術が推奨されている。しかしながら、塞栓術を施行しても再灌流してしまう症例が少なからず存在する。本研究は塞栓術後の再灌流の有無を経時的に記録した MDCT による瘤径の変化から診断することを目的とした後ろ向き研究である。塞栓術後 1 ヶ月よりも 3 ヶ月と 12 ヶ月の時点で非再灌流群で再灌流群に比べて瘤径の縮小が認められた。逆に 12 ヶ月後の瘤径縮小率が 60%未満であれば再灌流が示唆されることが ROC 曲線の解析から示された。肺動静脈瘻に対する塞栓術の効果判定における MDCT の有用性を示した価値ある業績であると考えられる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。